

◆ サグラダ・ファミリア教会の中で歌う

佐久間昇二 (旧高田市本町出身/ネット顧問)

私は2009年、78歳の時、六本木男声合唱団に入団しました。老後の楽しみを更に一つ増やすことが目的でした。正式に習ったこともないのに、団長の三枝成彰さん(有名な作曲家)に勧められるままに。

それから、17年経ちました。その間、海外公演が8回、サントリー・ホールが多いのですが、東京以外の舞台を含めて年4~5回の公演、又、歌うだけでなく、ミュージカルやオペラにも出演、多彩な、楽しい時間を過ごして来ました。

ただ海外公演は、2018年のアメリカを最後に、コロナの影響で中止になり、特に、最後、ニューヨークで、カーネギーホール(大ホール)の大観衆の前で歌った興奮が忘れられず、早く何処かへ行きたい気持ちが年々高ぶっていました。

そんな折、スペインのサグラダファミリア教会で歌おうという話が出、実現に2年かかりましたが、ついに、2025年12月1日に実現いたしました。

さて、いざバルセロナへの旅へと思った時、私は既に94歳になっていました。しかもバルセロナ迄は17時間かかります。更に公演の1日目は市内の音楽堂で、2時間立づくめで歌います。次の日、サグラダファミリア教会で賛美歌を歌います。友人たちから「余り無理をなさいませんように」と言われれば言われるほど、「大丈夫。皆さんに迷惑はかけません」と強がり言いながら、最後、公演旅行に参加する気持ちを決めました。

90歳になる女房が何時も一緒に行くので、今回も参加を表明したのですが、娘が心配をして、私が付き添いで行くといい出し、結局親子3人の楽しい旅になりました。

サグラダファミリア教会は1882年に着工以来140年以上たっても未完。世界で唯一の建設途中の世界遺産として有名であります。

天空に大きく、多彩に、そびえたつ建物の前に立った時、そして、内部に入って、壮大な、輝く壁画を見た時、圧倒され、「息をのむ美しさ」「異次元」「奥深い」「幻想的な」など形容詞がドンドン浮かんできます。

この中で歌える至福の時間でした。然しアッという間に過ぎてしまいました。・・・でも本当に幸せでした。

公演が終わり、別会場で最後の仕上げ会の席上、乾杯の音頭をとった私は、挨拶の中で、興奮しながらこんな言葉を述べました。

ガウディはこの教会を“心にしみいるような音を幻想的に響かせる巨大なオルゴール”として作り上げた。今、私たちの歌声は聖堂の地下に眠るガウディに快く届いたことだろう。

1926年6月7日、ガウディ最後の日の夕方、彼は職人たちに彼の最後の言葉としてこう呼びかけた諸君！明日はもっと良いものをつくろう！！と。

諸君！！新生六本木男声合唱団を 来年はもっと素晴らしい合唱団にしよう。

乾杯！！

今年は10月、東京カテドラル聖マリア大聖堂で、来年はハワイが候補です。その時は95歳か96歳になっていますが、元気で女房ともどもツアーに参加したいと思っています。

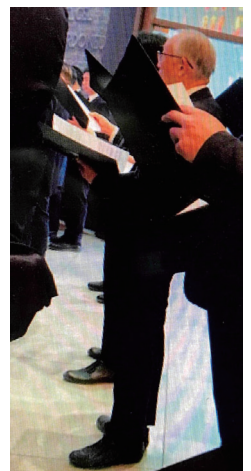
※P8に教会の中で歌う全体写真を掲載しています。



サグラダファミリア教会をバックに六男集合写真(団員100名)



2025.11.30 バルセロナ音楽堂で(20時~22時 合唱“最後の手紙”14曲通して)



教会の中で歌う私